

# 仙台市介護保険審議会議事要旨

(第6期計画期間 第1回会議)

日時：平成27年8月26日(水) 13:30~14:40

場所：市役所本庁舎2階第1委員会室

## <出席者>

### 【委員】

阿部 一彦委員，五十嵐 講一委員，板橋 純子委員，井野 一弘委員，大内 修道委員  
小笠原 サキ子委員，小坂 浩之委員，駒井 伸也委員，佐藤 功子委員，鈴木 峻委員  
鈴木 久雄委員，田口 美之委員，辻 一郎委員，出口 香委員，森 高広委員  
若生 栄子委員

以上16人，五十音順

(安孫子 雅浩委員，草刈 拓委員，土井 勝幸委員，長野 正裕委員 欠席)

### 【事務局 仙台市職員】

岡崎健康福祉局次長，會田保険高齢部長，下山田高齢企画課長，小林介護予防推進室長  
宮野介護保険課長，伊藤青葉区障害高齢課長，阿部宮城野区障害高齢課長，佐藤若林区障害高齢課長  
小原太白区障害高齢課長，山縣泉区障害高齢課長，星高齢企画課包括支援係長  
大友高齢企画課施設係長，川村介護予防推進室推進係長，阿部介護保険課管理係長  
伊藤介護保険課介護保険係長，中野介護保険課指導第一係長，佐藤介護保険課指導第二係長

## <議事要旨>

### 1 開会

### 2 健康福祉局次長あいさつ

### 3 委員紹介

宮野介護保険課長より各委員を紹介

### 4 市関係職員紹介

事務局より課長職以上の職員を紹介

### 5 議事

#### (1) 会長及び副会長の選出

暫定で事務局が進行。仙台市介護保険条例施行規則第20条第1項の規定に基づき委員の互選により選出。

鈴木峻委員から、会長に辻委員、副会長に小笠原委員を推薦する旨の発言があり、全会一致で決定。

(会長及び副会長あいさつ)

会議公開の確認(以下、辻会長による議事進行) → 異議なし(傍聴者なし)

議事録署名委員について、阿部委員に依頼 → 委員承諾

(2) 仙台市介護保険審議会の概要等について

① 仙台市介護保険審議会の概要について

② 仙台市介護保険審議会の運営(案)について

宮野介護保険課長より説明(資料1～2, 参考資料1～3)

<質問事項なし>

(3) 地域密着型サービス運営委員会及び地域包括支援センター運営委員会委員の指定

会長より地域密着型サービス運営委員会及び地域包括支援センター運営委員会の委員を指定。

<質問事項なし>

(4) 仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の概要について

下山田高齢企画課長, 宮野介護保険課長より説明(資料3, 参考資料4)

<質問事項>

委員: 介護人材の確保について、厚生労働省の資料では、2025年に全国で介護人材の充足率が最低なのが宮城で69.0%である。高い方が、九州や島根。首都圏でもそういう状況があるので、介護人材について、仙台市でも新たな行動を起こし、取り組みをしていくということだが、雇用情勢が緊迫している状況が将来的に明らかになっているので、よほど議論していただいて支援の枠組みを作っていく必要があるのではないかと思います。

事務局: 介護人材確保については、宮城県介護人材確保協議会の中で地域医療介護総合確保基金を活用した事業を実施していくということで、我々仙台市も参画をして企画をしているところである。仙台市の方でも、若手職員の交流会の企画を通して、介護人材の養成施設が多数立地する仙台市の利点なども生かしながら、仙台市として独自のネットワークを構築して、様々な手段手法により介護人材の確保を進めてまいりたいと考えている。

委員: 資料3の5ページの「4 地域で認知症の方とその家族を支える体制の整備」の中で、認知症初期集中支援チームの対象範囲を広げるということだが、現在仙台市では初期集中支援チームはどのくらいのチームがあるか。

- 事務局： チームとしては、2つのチームが動いている。その2つのチームが、青葉区、宮城野区、泉区をエリアに支援をしていくという体制を現時点ではとっている。
- 委員： 今度範囲を広げられるということで、2チームがその範囲を広げた中で対応していくということによろしいか。
- 事務局： 昨年度は1チームだったが、今年1チーム増やして先程の3区の全包括のエリアを担当している。

(5) 介護保険の実施状況について

宮野介護保険課長より説明（資料4）

<質問事項>

- 委員： 参考資料5の2ページの「社会参加活動の推進」の「老人クラブへの助成」の団体数が25年度と26年度を比べると、26年度は7団体減っている。私は町内会の副会長をやっているのですが、老人クラブというのは町内会でも結構力を入れて会員募集をやっている。減った事情がもしわかれば教えていただきたい。
- 事務局： 団体数はご案内のとおり7団体減っており、会員数についても若干減っている状況にある。市の老人クラブ連合会などでも力を入れて、会員を増やしていこうという取り組みは行っているが、体調を崩されたりするような方々がいて、老人クラブの団体そのものが活動ができなくなってきたという話を伺っている。様々な状況等はあると思う。
- 委員： 地域での活動の中で、老人クラブを町内会では結構大きな位置付けにしている。そういう意味で老人クラブに対する見方というのは、助成もさることながら育成ということも考えていかないと、地域ケアシステムというお題目はわかるが、具体的に何を使ってどうするかという意味では、老人クラブは私の見ている限り結構戦力になるので、そういう意味でも認識をしていただければと思う。
- 事務局： 今お話があったとおり、老人クラブの会員の方々は地域の見守りであったり、外出の支援であったり、いろいろとご協力をいただいている状況である。我々としても、老人クラブ連合会等々と話をしていこうと考えている。
- 委員： 参考資料5の4ページの「(イ)介護予防訪問指導」で、26年度実績が25年度に比べかなり回数が減っているが、何か原因はあるか。
- 事務局： 訪問指導の対象者は、いろいろなところに通所できない方、つまり家の中にいらっしゃる方ということで、かなり対象者が限定されてしまっているところがある。逆に、送迎や補助があり、通うことができる方も多くなっており、環境が整ってきているところがあって、なかなか対象者をうまくキャッチできないところもあるのではないかと考えている。
- 委員： 対象者がいるが、なかなかそこを把握しきれないということか。
- 事務局： 通うことができる方は対象にはならないので、家にいらっしゃる方をキャッチできないところはあると思う。
- 委員： この数字から見ていくと、25年度と26年度を比べた場合に、自ら外に出て行かれる方が多くなってきたということか。

事務局： それも一因かとは思いますが、それだけとは言い切れない。

## 6 報告

- (1) 地域密着型サービス運営委員会（第5期第12回会議）について
- (2) 地域密着型サービス運営委員会（第6期第1回会議）について
- (3) 地域包括支援センター運営委員会（第6期第1回会議）について  
下山田高齢企画課長より説明（資料5～7）

<質問事項なし>

## 7 その他

事務局より次回の日程案について説明。

## 8 閉会